

平成28年度 学校自己評価表 (最終評価)

|   |   |
|---|---|
| <p>中長期目標<br/>(学校ビジョン)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 誠実な心を育て、たくましく生きる力を養い、個性豊かな人間形成を図る。</li> <li>2. 実践的な学習をとおして、創造する喜びを体験するとともに自主・自律の態度を養う。</li> <li>3. 様々な教育活動をおとして、他人を思いやり、友情を育み、心身ともに健全な態度を養う。</li> <li>4. 望ましい勤労観・職業観を育て、地域産業を支える人材を育成するとともに地域の発展に貢献する。</li> </ol> | <p>今年度の重点目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 心身ともにすこやかな生徒の育成</li> <li>2. 夢や希望をかなえられる学校づくり</li> <li>3. 地域・地元可愛され、信頼される学校づくり</li> <li>4. ものづくり教育の推進</li> </ol> |
|---|---|

| 評価項目                    | 評価の具体項目  | 年度当初   |  | 評価結果  |   |   |
|-------------------------|--|--|--|---|---|---|
|                         |  | 現状   | 目標(年度末の目指す姿)   | 経過・達成状況   | 改善方針  |   |
| 1. 心身ともにすこやかな生徒の育成      | 生徒一人ひとりを活かす人間教育を促進し、いじめや差別のない望ましい人間関係を構築していく。<br>低学年からの意識づけを大切にしているが、学校外において校内と同じ意識を持つという点では、まだ不十分な面がある。あいさつも声が小さく形だけにとどまっている生徒が増えてきた。<br>部活動の教育力を活かして、心身を鍛えるとともに基本的ルールやマナーを体得させる。   | 全校の90%が無遅刻であり遅刻の数はたいへん少ないが、防げる遅刻の割合が多い。<br>服装、マナー、エチケットは向上しているが、学校外において校内と同じ意識を持つという点では、まだ不十分な面がある。あいさつも声が小さく形だけにとどまっている生徒が増えてきた。<br>部活動には90%以上の生徒が加入し熱心に参加している。   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○全校の遅刻回数が年間8%(43回)以下となる。</li> <li>○朝読書の時間は全校が静かな環境で落ち着いて読書を行う。</li> <li>○社会人として通用するマナー、身だしなみ、言葉遣い、+αのあいさつが実践できる。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○登校した生徒から読書を開始し、8:30には静かな状態で、遅刻できない雰囲気をつくる。</li> <li>○遅刻者には、時間を守ることやSHRに出席することの大切さを本人・保護者に伝える等、安易な遅刻・欠席が減るよう、その都度指導する。全校で決めた数値目標を達成しようと努力することが学校の一人としての意識の高さであることを伝えていく。</li> <li>○遅刻届を活用し、防げる遅刻がないよう個別指導を充実させる。</li> <li>○朝読書におすすめの本のコーナーを設置し、図書館の本の利用と読書の推進に努める。</li> <li>○5Sの徹底に努める。</li> <li>○朝のあいさつや授業ごとのあいさつにおいて分離礼をしっかり行う。</li> <li>○部活動等を活かしながらマナー、身だしなみ、言葉遣い、あいさつに気持ちが込められるような雰囲気をつくる。</li> <li>○教職員が一致した姿勢で、機会を逃さず指導を行う。</li> <li>○あいさつだけでなく、日頃から相手を思いやった言葉を掛け合える関係をつくっていく。</li> <li>○日常生活のなかで、正しい敬語が使えるよう意識し、生徒への指導を徹底するとともに大きな声ではっきりとした口調で対応する習慣を身に付けさせる。</li> <li>○生徒の部活動状況について、顧問、生徒会、担任、保護者と連携を密にし、情報を共有して、退部者・未加入者を抑え、加入を促進する。</li> <li>○PTAの研修会を企画し、家庭から社会人としてのマナーが教育されるように助長する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○一部の生徒であるが、安易に欠席している傾向もあるようだ。</li> <li>○遅刻は年間40回以下を目標としたが、1月末で55回と昨年年度の46回をオーバーしてしまった。また、防げる遅刻も昨年より多い24回であった。</li> <li>○授業時のあいさつで声を出さない生徒が以前より増えたように感じる。</li> <li>○目をあわせてあいさつできない生徒、元気がないあいさつの生徒、心のこもったあいさつができない生徒が目についてきた。</li> <li>○あいさつに学年差や個人差が見られ、目指すレベルには達していない。</li> <li>○服装指導は月1回実施できた。再検査の対象者数はのべ235名で昨年度(339名)より大幅に減少した。</li> <li>○部活動の加入率は1年95%、2年95%、3年94%であった。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○個人面接等の機会を捉えて生徒に関わっていく。また、複数の教員で面接を実施し多くの教員が関わる体制作りも検討したい。</li> <li>○防げる遅刻24回のうち、寝坊が8件、体調不良が6件、雪の影響が5件であり生活習慣を整える、体調管理に気をつける、予測し余裕を持って行動する等を根気強く呼びかけていく。</li> <li>○あいさつ等は授業時、学年集会等の機会を捉えて継続的に指導していく。できない場合は、その時にできるまで指導するとともに、あいさつの大切さについても語りかけていく。</li> <li>○あいさつについては職員による指導だけでなく、あいさつ週間・部活動内の呼びかけ等生徒会活動を通した動きも必要である。</li> <li>○再検査ゼロを目指すとともに、日頃から全職員が共通理解のもとに指導を継続する。また、全職員で小さな違反を見逃さない姿勢を大切にす。</li> <li>○加入状況を継続して把握ながら100%の加入を目指す。</li> </ul> |
|                         |  | 環境に対する意識向上を目指す。  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○定期的に環境HRを行い、環境に対する意識を高める。</li> <li>○保健委員の活動によって、クラスでの環境に対する意識を高める。</li> <li>○実習等で排出されるごみの分別を徹底するとともに、分別しやすくする工夫を検討する。</li> <li>○教室等、活動場所・使用場所の整理整頓、清掃活動を徹底させる。</li> <li>○毎日の掃除は時間いっぱい使い、奉仕の心を育む。また、その必要性を説諭する。</li> <li>○裏面利用を再度確認して積極的に利用する。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○容器を色分けし、ごみを分別し廃棄するよう意識して実施したが、改善は十分ではなかった。</li> <li>○保健委員の活動や環境LHRを行うことで環境に対する意識は向上してきている。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○一般の工場などを参考に、分別できるように改善する。</li> </ul>  |   |
|                         |  | 地域や企業と連携し、実践的な「キャリア教育」を推進し、生徒の興味・関心や適性に応じた進路実現を目指す。資格や検定の取得を促すことで基礎学力の定着と主体的に学ぶ姿勢を育てる。<br>早期に進路意識を持ち就職・進学に対応できる学力を身に付けられるような支援体制を整備する。   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○具体的な進路目標を定めているが、目標のために何をどのように取り組めば良いか計画できない生徒が多い。また、基礎学力の定着や文章力、表現力に不十分さがある。</li> <li>○就職希望者支援体制については、ほぼ完成されているが、進学者指導に関しては、個別指導に頼る部分が多い。特に4年制大学への進学指導については大学固有の入試制度の研究など支援体制の整備が必要である。</li> <li>○各教科で公開授業を計画的に行っているが、教科の枠を越えた組織的な授業研究には至っていない。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○低学年からの進路意識の向上と(インターンシップ・デュアルシステム)の充実による)勤労観・職業観を育成する。</li> <li>○進路意識を持たせるため、進路講演会、進路学習会、進路説明会、進路LHR等を実施する。</li> <li>○定着指導・求人依頼・企業開拓のため、進路部と科で連携して県内の企業を積極的に訪問し企業や産業界の情報を積極的に伝える。</li> <li>○インターンシップ・ビジネス実習の事前・事後指導を徹底・充実させる。</li> <li>○企業見学・社会人講師等を活用して、職業観の育成に努める。</li> <li>○「進路だより」等を利用して、本校の卒業生の進路達成までの学習への取組やアドバイスを紹介し、早めに意識することの大切さを伝える。</li> <li>○個人面接を積極的にを行い、早期に進路意識を高める。登校後の時間を有効活用し、学力向上に繋げていく。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○進路講演会、進路学習会、進路説明会、進路LHR等を計画的に行い進路意識の向上に努めた。2年生に対しては早期に意識付けを行うため1月に進路説明会を実施する予定であったが、インフルエンザの流行による学年閉鎖等により3月に延期した。</li> <li>○社会人講師による技能指導を実施し、工場見学などで勤労観・職業観を育てることができた。</li> <li>○「インターンシップ」「ビジネス実習」を通して、勤労観や就労意識が身に付いてきている。</li> <li>○全職員による作文・小論文指導を行った。</li> <li>○求人確保のため今年度も県内外の企業を積極的に訪問した。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○企業の取組の現状を伝えていく。</li> <li>○インターンシップ・ビジネス実習の事前・事後指導を徹底・充実させる。</li> </ul>  |
| 2. 夢や希望をかなえられる学校づくり     | <ul style="list-style-type: none"> <li>○基礎学力の定着と表現力を向上させる。</li> <li>○生徒全員の家庭学習時間が平日1時間以上、休日2時間以上を目指す。</li> <li>○学習指導委員会による進学支援体制を確立する。</li> <li>○授業改善・教科指導力の向上に向けて教師の意識が高まる。</li> <li>○公開授業への教科の枠を越えた参加者が増加し、教員間で授業方法についての研究が進められるようになる。</li> <li>○資格取得を促進する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○進路部と学年団・各科との連携を密にするとともに、学力分析や指導方法について検討していく。</li> <li>○資格指導をとおして家庭学習の機会を増やすよう課題を与える。</li> <li>○基礎力診断テストでの調査にある家庭学習時間を利用し、家庭での学習と成績との関連を振り返らせ、家庭学習の大切さを伝える。</li> <li>○3年生の進路が一段落する12月から2年生の進路指導に取り組み、2月学年末考査後には具体的な進路実現に向けて行動できるよう、計画的に個別に指導していく。</li> <li>○進路部を中心に大学進学希望者のための、大学調査・大学訪問を実施する。</li> <li>○2年次の12月保護者会後、大学進学希望者や医療系希望者への意識づけや具体的な取組を実施する。</li> <li>○合格後も個別指導を継続することにより、進学後に必要な科目の学びに対応できる力をつける。</li> <li>○教科内での授業研究をさらに深めるとともに、他教科の公開授業にも積極的に参加し、授業改善・指導力向上に努める。</li> <li>○資格取得・上級資格取得のための計画的に充実した補習を実施する。資格試験の情報提供を行う。</li> <li>○図書館の検定資格取得コーナー、進路や教科指導に関する本を充実させる。</li> <li>○計画的に科内の全職員で資格指導にあたるよう科内調整をおこなう。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○教科で補習や個別指導等を行った。しかし、指導を受ける姿勢が受身的であり、なかなか生徒の力となっていない。</li> <li>○基礎力診断テスト実施前には事前学習課題を行い、実施後は各教科と進路部で今後の指導方針について協議し実施した。また、学習状況調査結果と成績との関連について振り返らせ家庭学習の大切さを伝えてきたが、2年生では家庭学習をまったくしない生徒が60名程度あり、学習時間も減少傾向にある。</li> <li>○合格後は入試科目に加え、理科の補習を実施し、看護・医療・栄養関係への進学生徒の学力保障対策を行った。</li> <li>○公開授業を計画的に行っているが、参加者が少ない。</li> <li>○計画的に資格補習を実施し、例年以上の成果を挙げることができた。計算技術検定2級など新規に指導を始めた検定でも各学年で合格者を出すことができた。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○学習指導委員会等で指導状況の確認や指導体制の検討を継続する。</li> <li>○3年生の進路が一段落する12月頃から2年生の進路指導に取り組み、3学期は「3年生0学期」という意識で、具体的な進路実現に向けて行動できるように計画的に個別の指導をおこなう。</li> <li>○ICT活用、協調学習等の視点を定めながら授業公開を行い、授業後の研究会にも積極的に参加できるようにする。</li> <li>○補習の在り方の検討と同時に、学科と教科の関連も確認し、課外補習に頼らない指導体制も整備する必要がある。</li> </ul>   |   |   |
| 3. 地域・地元可愛され、信頼される学校づくり | <ul style="list-style-type: none"> <li>○広報活動に力を入れ、学校理解・PRに努めるとともに、地域・産業界との交流を進め相互理解を深める。</li> <li>○学校評価を活用しながら教育活動の改善を進め地域からの信頼度を高める。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○中学生の本校志願者数を増加させる。</li> <li>○中学校の本校説明会により中学校教員の本校への理解は進んできたが、中学生及び保護者の理解はまだ十分とは言えない。</li> <li>○課題研究等による地域との交流活動が定着し、好感を持って地域に受け入れられている。</li> <li>○学校評価アンケートを実施し集計を行っているが、評価結果および分析結果を改善に活用しようとしている。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○工作教室を実施して、学科の内容を知ってもらう。</li> <li>○中学校体験入学の内容を検討する。</li> <li>○生徒の活動の様子(課題研究・社会人講師など)や学科の取組、部活動の様子等、HPも利用しながら積極的にPRする。</li> <li>○本校の生徒や卒業生が、実際に中学校に赴き、本校の紹介とアピール活動をする。</li> <li>○学校評価アンケートを実施し集計後の分析を行う。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○工作教室には夏は小学生が20名、冬は中学生5名と高校への留学生1名の参加であった。</li> <li>○電気と福祉(課題研究)は中部地震後の取り組みでもあり大変喜んでいただいた。</li> <li>○「くらすや」は地震のため営業が危ぶまれたが、生徒の熱意と商店街や倉吉市のバックアップもあって最後までやりきることができた。</li> <li>○倉吉市に「くらすや」の売り上げの一部を見舞金として送った。</li> <li>○学科の行事を積極的にWebページにアップして学科の様子が伝わるようにした。また、Webページの改良もおこないより見易いページとなるようした。</li> <li>○PTAだよりは予定通り発行できた。</li> <li>○学校評価アンケートを実施し集計を行った。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○学科毎の特色ある取組を継続するとともに、学校HPや文書等による広報活動に力を入れる。</li> <li>○集計結果を分析し次年度の学校自己評価の目標や具体的な方策にいかしていく。</li> </ul>  |   |
| 4. ものづくり教育の推進           | <ul style="list-style-type: none"> <li>○地域産業界や企業等と連携し、専門分野についての基本的知識・技術を持ち、チャレンジ精神に富んだ人材を育成する。</li> <li>○学科の枠を越えて生徒理解を図り、「ものづくり」に協力して取り組む体制づくりに努める。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ものづくりコンテストへの取組や社会人講師による指導によって、より高いレベルの技術を習得しようとしている。また、技術を習得するだけでなく、習得した技術を社会に活かそうとする取組も行われている。</li> <li>○学科間連携を促進させる。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○鳥取県電業協会の協力をお願いする。</li> <li>○ものづくりコンテストや社会人講師・技能検定の受検などの取組を通じて技能向上を目指す。</li> <li>○課題研究等をおとし、学科間の連携をめざす。</li> <li>○生徒の実態に合わせて、総合選択制が有効に機能するように選択群のあり方を検証していく。</li> <li>○くらすやのPRIにつながる活動を課題研究のテーマとして取り入れる。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ものづくりコンテスト電気工部門の結果は3位・4位であった。</li> <li>○大山乳業農業協同組合と生活デザイン科が連携し鳥取県産イチゴを使ったアイスクリームの共同開発を行った。</li> <li>○「くらすや」に各教科オリジナルの商品を提供できた。また、1日だけではあったが「おもちゃの病院」も併設し数件の依頼に応えることができた。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ものづくりコンテストへの取組を継続し上位入賞を目指す。</li> <li>○「くらすや」の運営や課題研究での協力等、学科間で協議しながら連携をさらに深める。</li> </ul>   |   |